

身高 Dream Project

産業社会と人間 ～職業人インタビュー～

身延高校 Dream Project は夏季休業中にも行われました。
 1年次生は「夢の発見」のために、「職業人インタビュー」に出かけました。生徒だけで事業所にアポを取るから始め、訪問前には質問事項を検討し模擬インタビューなども行いました。プロの方に直接お話を聞くことで、興味・関心を持つ職業に対する理解を増すとともに職業観を深めることにつながります。
 2年次生は、「夢の育み」としてオープンキャンパスやインターンシップなどに積極的に参加しました。インターンシップでは保育の現場での仕事を体験し、仕事への理解を深め経験を積みました。
 3年次生は、「夢の実現」のために取り組みました。進学希望者は進学課外を受講し個々の実力の伸長を図り、模擬試験を受験して全国規模での自分の学力位置を確認します。また、結果を分析し次回への改善点を模索します。就職希望者は、就職ガイダンスを受講し心構えを新たに、模擬面接を経験しました。また、応募前職場見学会にも積極的に参加しました。



今年度の職業人インタビュー先

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 伊藤調査測量設計株式会社 | なとり動物病院 |
| スポーツオーソリティオンモール甲府昭和店 | 大野山保育園 |
| 株式会社エスパルス | 株式会社アドブレン社 |
| 静岡市立日本平動物園 | 身延山病院 |
| サイトテック技術研究所 | 身延町立図書館 |
| 峡南農務事務所 | 甲府地方検察庁 |
| 下山立正保育園 | 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 |
| ベルクラシック甲府 | 山梨交通身延営業所 等 |

中高連携

～アシスト授業～

「学習意欲の向上」と「基礎学力の定着」のために、身延中学校・南部中学校・身延高校では、相互の教員による授業アシストを実施しています。中学校の授業アシストでは、高校の数学の教員が両中学校の数学の授業をアシストしています。身延中は週2日4時間、南部中は週2日6時間実施しています。中学生は高校の問題の解き方なども学ぶことができ、刺激を受けることで学力の向上に繋がっています。高校の授業アシストでは、両中学校の数学と英語の教員が、高校1年次生の数学と英語の授業をアシストしています。今年度は9月中旬まで実施する予定です。高校1年次生の授業へのつまづきを減らすことも目的の一つになっています。



高大連携

身延高校は地域貢献を目的に、山梨県立大学と連携して「高大連携事業」に取り組んでいます。昨年度は、「身延で暮らしたいあなたへ」をテーマに、身延で生活していくにはどのくらい費用がかかるのか、項目ごとに調査し、リーフレットにまとめました。今年度は昨年度の内容を継続したうえで、さらに「マイホーム」と「子育て」の二つの内容に着目して調査、研究を進めています。また新企画として県内、県外の大学、短期大学、専門学校等の、進学にかかる諸費用について調査、研究をしています。

6月25日(木)の放課後には山梨県立大学の伊藤先生とオンライン会議を実施し、研究の内容をより明確にイメージすることができました。今後は調査を進めながら、本校卒業生などに実際に話を聞くことで、より具体的に内容を深めていきたいと考えています。



▶ 特進クラス登校学習会 ◀

8月3日(月)～6日(木)に1、2年次特進クラスによる登校学習会が行われ、各自で設定した目標に向けて、学習に取り組みました。また、特進クラスの3年次生から学習方法や受験に向けてのアドバイスを聞きました。



▶ マスクのお礼に ◀

身延高校で制作したマスクを身延町内の小学校に寄付したところ、6月24日(水)にマスクのお礼に3校の小学校を代表して、身延小学校の児童が来校しました。各小学校からお礼の手紙とコロナウィルス感染予防のポスターをいただき、本校生徒会と交流しました。



SHINKO 身高VIEW

Vol.14
 2020.September
 MINOBU
 HIGH SCHOOL

学校生活充実号



感謝の
 気持ちを胸に
 最後の舞台へ



やっぱり部活動って楽しい!! 3年次生、3年間の集大成。

コロナウイルス感染予防のため大会等が中止になる中で、いくつかの部活動では代替大会となる夏季体育大会が行われました。大会等がなかった部活動も3年次生は、最後まで頑張りました。厳しい状況の中でも、部活動ができることの喜びや感謝の気持ちをもって、取り組みました。

メッセージボード

チーム身延!
頑張るみんなを
応援します!



男子ソフトボール部

3年B組 佐野翔太【身延中学校出身】

3月の選抜大会がなくなり、6月、8月の関東大会、ミニ国体、インターハイまでもがなくなりました。正直、とてもやる気がでませんでした。しかし、これまでお世話になった監督、保護者、地域のみなさん、先生への恩を返そうと頑張ることができました。そして、代替大会や身延高校のOBの方々とういぶりに試合をし、ソフトボールの楽しさや難しさを改めて実感することができました。これまで活動してきた集大成を見ることができ、とても嬉しかったです。



3年A組 佐野蒼真【南部中学校出身】

出場予定の選抜大会から次々と大会がなくなり、ソフトボールへのモチベーションが下がってしまいました。しかし、部活動ができない間も家で素振りをしたり、YouTubeの動画を見たり、一人できる練習を続けました。7月末の代替大会では、試合をする楽しさを改めて感じました。そして、佐野監督や富田先生が準備してくださったOB戦で、3年次生最後の試合をすることができました。たくさんの人たちに支えられながら、ソフトボールができたことに感謝しています。このような形で引退することは残念ですが、とても充実した部活動生活でした。



野球部



3年C組 藤田隼斗【身延中学校出身】

甲子園大会の中止が決まり、夢を失い、先が見えない中、山梨県で大会が開催されることを信じ、部員それぞれが練習をしてきました。部活動が再開してからは、毎日仲間と野球ができる喜びと幸せを感じることができました。2020夏季山梨県高等学校野球大会の開催が決まってからは、「Change」のローガンのもと、県大会優勝を追い求めました。

山梨高校戦では、逆転勝ちで鍛えた「心」の成長を感じられ、富士学苑高校戦では、強豪校と対等に戦える強さを実感しました。また、大会で勝ち続けることの難しさを学ぶことができました。大会を通じて、身延高校野球部の「考える野球」を証明できたと感じています。後輩には、「考える野球」で県大会を勝ち抜き、甲子園で校歌を歌ってほしいと思います。

女子ソフトテニス部



3年C組 笠井菜那【南部中学校出身】

多くの大会が中止となる中、3年次生にとって最後の大会である夏季体育大会に、私は参加することができませんでした。しかし、私は部長として、最後まで部員へのアドバイスや声掛けをし、その結果、楽しい部活動にすることができたと思うので悔いはありません。この3年間、多くの大会に出場しましたが、あまり良い成績を残すことができませんでした。それでも、先生や先輩方のおかげで、楽しくソフトテニスのできたので、ソフトテニス部に入って良かったです。

3年A組 望月萌衣【六郷中学校出身】

私が、今までの大会を通じて思うことは、負けることが多かったけれど、先輩や後輩、そして先生方にたくさん応援してもらえたということです。色々な人に支えられていることを、部活動を通じて実感できました。夏季体育大会でも負けてしまいましたが、後輩の一葉さんと声を掛け合い、今までの試合の中で一番多くカットサーブで点を取ることができたので、悔いの残らない試合をすることができました。

3年B組 望月悠衣【六郷中学校出身】

私は、夏季体育大会に出場できず、少し寂しい気持ちになりましたが、残り少ない部活動を楽しくやり切りたいと思い、部活動に取り組みました。3年次生最後の大会には出場できませんでしたが、3年間の大会の中で、他校の対戦相手から学ぶことは多く、とても良い刺激になりました。

女子バレーボール部



3年B組 加藤凜々花【南部中学校出身】

総体とインターハイ予選が中止になってしまい、3年次生はこのまま引退になってしまうのかと寂しい気持ちになりました。そのなかで代替大会の開催が決まり、大好きなバレーを皆と一緒にできることのありがたみを感じながら、一日一日の練習を大切に本番まで活動してきました。

最後の大会は、今まで練習で培ってきたことを発揮し、楽しみながら悔いなくプレーすることができたのでよかったです。身延高校バレー部での経験を通じて、チームの大切さを学ぶことができました。代替試合を開いてくださったことに感謝するとともに、1、2年次生にはこれからも頑張ってください。

演劇部



3年C組 深沢凜玖【身延中学校出身】

私たちは今回、朗読劇「Kenji the WORLD」を上演しました。この公演が1年次生には初舞台、3年次生にとっては、引退公演となりました。練習期間14日間の中で、年次関係なく活発に意見を交わすことで素晴らしい作品を作り上げられたと思います。私は今回の公演がラストステージとなりましたが、演劇部で学んだことをこれからの生活・進路に活かし、受験生として第一志望校合格を目指して頑張っていきます。

陸上競技部



山梨県高等学校夏季体育大会 陸上競技の部 男子三段跳、男子円盤投、男子やり投、男子砲丸投、女子円盤投 優勝!

3年C組 珊瑚菜帆【南部中学校出身】

今年の総体は、私の小学生からの陸上人生の集大成でもありました。そのため、最後の総体にかける気持ちはとても強かったです。総体中止を知った時は、正直、目標を失いどうしたらいいのか分からなくなりました。しかし、代替大会の開催が決まってから、「最後までやり切って終わろう」と気持ちを切り替えて、再び練習に励みました。結果は満足のいくものではなかったですが、この期間を通して、今まで当たり前でできていた部活動が当たり前ではないこと、何があっても目標を貫くことの大切さを感じました。そして何より、私たちが競技をすることを全力でサポートしてくれる家族や顧問の先生、指導者の方々の存在をこれまで以上に大きく感じることができました。最後に結果で恩返しができなかったことは、本当に悔しいですが、陸上競技を通して学んだことは、今後絶対活かしてくると思います。

